

## 「くすりのしおり®」実際の活用

# さらに患者さんに近づいた「くすりのしおり®」 ～「くすりのしおり®」が保険薬局用レセプトコンピューターに搭載～

「くすりのしおり®」は、患者さんと医療従事者とのコミュニケーションのサポートツールとして当協議会が1997年に開発し1999年2月から公開しています。製薬企業137社のご協力により作成・更新されており、「くすりのしおり®」サイト(<http://www.rad-ar.or.jp/siori/index.html>)に掲載されている「くすりのしおり®」は約11,000種類(内服・外用剤:約9,600、注射剤:約900)にのぼり、英語版も約1,000種類あります。

2008年に当協議会が実施したウェブアンケート<sup>1)</sup>によると、「くすりのしおり®」サイトへのアクセスは、一般の方が半数以上との結果が出ています。また、いくつかの医療ポータルサイト【AskDoctors(エムスリー株式会社)、

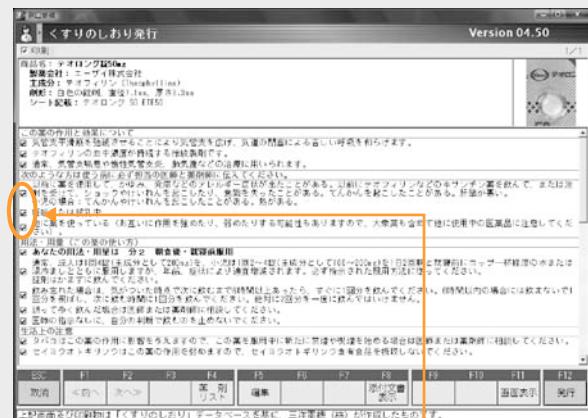
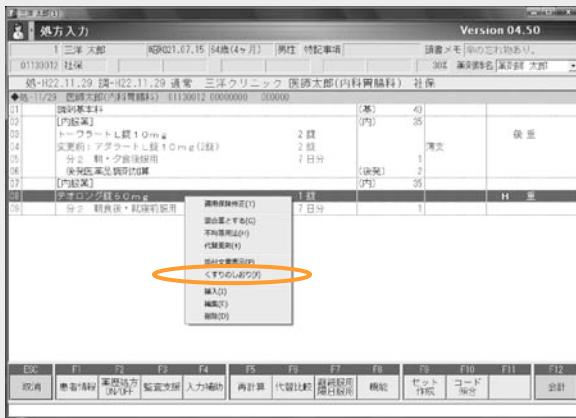
QLifeお薬検索(株式会社QLife)、薬検索(株式会社オーラバウト)】のくすり情報も、「くすりのしおり®」のデータを基に作成されていることから、患者さんはインターネット上で入手した「くすりのしおり®」の情報を基に、専門家の説明を希望しているのではないかと推測されます。また、このように情報がインターネット上で容易に入手できることで、患者さんがご自身の治療に積極的にかかわっていく機会が増えていくことが期待されます。

このような状況の中、平成22年12月より保険薬局用レセプトコンピューター「Pharnes(ファーネス)II」(三洋電機製)に「くすりのしおり®」が標準搭載されましたので、「くすりのしおり®」活用例をご紹介します。

### ◆活用例① 「くすりのしおり®」を窓口・電子保存画面からかんたんに印刷。服薬指導をサポート◆

処方入力画面より、説明したい医薬品を選択し右クリック。「くすりのしおり®」をクリック

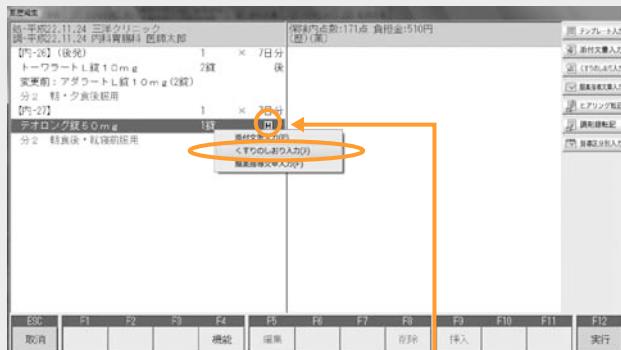
「くすりのしおり®」が表示される。「くすりのしおり®」の内容をそのままの状態で印刷、また、特に伝えたい内容だけを選択し、表示・印刷することも可能



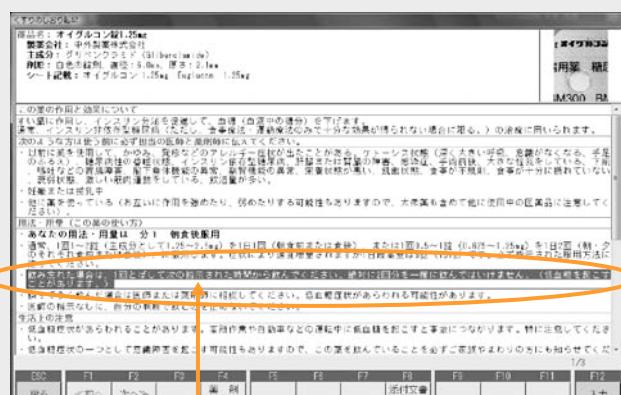
チェック機能を選択することで、提供したい情報だけを印字することが可能

◆活用例② 服薬指導した内容を  
そのまま薬歴の服薬指導文書へ簡単に転記◆

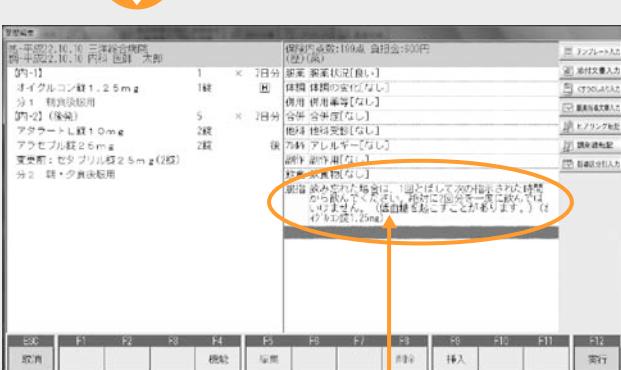
服薬指導画面から薬歴編集をクリック  
「くすりのしおり®」を表示



**ハイリスク薬の印**  
[PharnesII]にはハイリスク薬に  
印がつく機能があります



引用したい文章を選択



ワンクリックでかんたんに転記

くすりのしおり®

当協議会が1993年から作成している医療用医薬品ごとに必要最小限の情報をまとめた情報シートで、医療提供者と患者さんとのコミュニケーションツールとして広く活用されています。

また、バリアフリー対策として、在日外国人向けに英語版を、視覚障がい者向けに音声版を用意しています。

<http://www.rad-ar.or.jp/siori/index.html>

保険薬局の服薬支援(指導)は「薬剤情報文書」に基づいて口頭で実施されることもありますが、当協議会が行った医療・医薬品に関するアンケート調査(2010年)<sup>2)</sup>で、「患者さんはより詳しいくすりの情報を薬剤師から提供してもらう」ことを希望しており、さらに自宅でも読みなおせる紙媒体での提供を要望されています。このような機能でしたら、保険薬局のカウンターで薬剤師の先生方にも「くすりのしおり®」を利用しやすくなり、患者さんにわかりやすい服薬指導・印刷物を提供しやすくなるのではないでしょうか。[PharnesII]の機能を利用して、特に、ハイリスク薬の薬剤管理指導<sup>3)</sup>に活用される予定の薬局もあるそうです。

「くすりのしおり®」は、今後、診療所向けのレセプトコンピューター・一体型電子カルテシステム「Medicom-HRII」(三洋電機製)への搭載も予定されています。このような機器を用いて、「くすりのしおり®」が薬物治療選択の際や服薬指導の際に利用しやすくなることにより、患者さんがご自身のくすりについての理解をより深め、ひいてはアドヒアランスの向上や患者さん参加型の医療につながることを期待します。

1)くすりの適正使用協議会、2008、第41回日本薬剤師会学術大会ポスター発表、「対話のある医療」を目指して-新版「くすりのしおり®」が医療担当者と患者に十分に活用されるための調査報告-  
[http://www.rad-ar.or.jp/02/07\\_event/kanren/pdf/41th\\_nichiyakakkai\\_3.pdf](http://www.rad-ar.or.jp/02/07_event/kanren/pdf/41th_nichiyakakkai_3.pdf)

2)くすりの適正使用協議会、2010、『医療・医薬品に関する意識調査』  
[http://www.rad-ar.or.jp/03/05\\_release/nr10-101027.pdf](http://www.rad-ar.or.jp/03/05_release/nr10-101027.pdf)

3)日本薬剤師会、2009、薬局におけるハイリスク薬の薬学的管理指導に関する業務ガイドライン(第1版)

[注1] [PharnesII]に関する内容お問い合わせ先:

三洋電機株式会社 コマーシャルカンパニー メディコム事業部 調剤システム部 調剤企画課 Tel:03-5816-5158